

競技注意事項

北海道高等学校体育連盟
テニス専門部

1. 選手・監督について

(1) 服装

選手の服装はテニスウェアであること。トレーナー、Tシャツ、ウォームアップウェア（上下）等の着用を禁じる。テニス用のセーター、カーディガン、ベストの着用は差し支えない。ただし、天候に配慮してレフェリーが特に必要と認めた場合に限り、ジャージ、トレーナー、ウォームアップウェア（上下）の着用が許される。

(2) 校名入りマーク

選手は校名入りマークを腰の見やすい位置につけなければならない。

(3) 靴

選手の靴はテニスシューズであること。

(4) コーチング

団体戦の競技中、ゲーム終了のエンドチェンジの間に限り、選手はベンチにいる監督・選手のコーチングを受けることができる。ただし、タイブレーク中のエンドチェンジは除く。その他のいかなる場面においても、選手は競技中に一切のコーチングを受けてはならない。

この条項は「テニス規則 30. コーチング」に基づいて、厳格に解釈されなければならない。違反した選手（監督、コーチ、チーム）に対しては、アンパイア（主審）またはレフェリー（専門部）によってコード・バイオレーションが宣せられ、ペナルティが科される。すなわち、1回目は警告、2回目は失点、3回目はそのゲームを失い、4回目は失格の措置である。（「トーナメント諸規則 3-Q. ポイント・ペナルティ制度」に基づく。）

(5) 連続的プレー

ポイント間の時間を20秒と規定する。（選手は一つのインプレーが終わった瞬間から20秒以内に次のプレーを始めなければならない。）また、奇数ゲーム終了後のエンドチェンジの時間を90秒と規定する。（この時、選手は60秒でベンチを離れ、次のプレーのために移動をし、90秒以内に次のプレーを始めなければならない。）

これらの時間を不注意で超過してしまった選手に対しては、タイム・バイオレーションが適用され、ペナルティが科されることがある。すなわち、1回目は警告、2回目以降は失点の措置である。（「トーナメント諸規則 3-Q. ポイント・ペナルティ制度」に基づく。）

(6) 提訴（アンパイアへの異議の申し立てなど）

選手・監督は、試合中の事実問題（イン・アウト・フォールト・ノットアップ・レットなど）に関してアンパイア（主審）が下した判定に対し、一切提訴することはできない。判定後、アンパイアの「レッツ・プレイ(Let's Play)」の指示が出たら、選手は20秒以内にプレーを再開しなければならない。これに従わない者にはコード・バイオレーションが宣せられ、ペナルティが科される。（「トーナメント諸規則 20. 決定および提訴」及び「トーナメント諸規則 3-Q. ポイント・ペナルティ制度」に基づく。）

ただし、ルール解釈上の問題や、相手の監督・選手または応援観客の目に余るプレーを妨害するような応援については、レフェリー（専門部）に提訴して裁定を求めることができる。

(7) 個人戦でのベンチ及びコーチング

個人戦で、監督はベンチに入ることにはできない。また、コート外からのコーチングやそれに類する行為をしてはならない。

(8) アピール

選手・監督は、声や態度によってアウト・フォールト・レット・ノットアップ（2バウンド）などのアピールをしてはならない。指を空に向けてアウト・フォールトをアピールする仕草も、審判のいる試合では厳に慎まなければならない。

(9) 団体戦でのベンチ

団体戦では、監督・登録選手に限り、1コートにつき1名がベンチに入ることができる。

2. 試合について

(1) 時間厳守

試合の開始時刻やコートの変更もあるので、選手は大会本部の連絡に十分注意を払わなければならない。試合がコールされてから5分以内に所定の場所（試合コート）に現れない場合、その選手・チームは失格の検討対象となる。

(2) 試合前の練習

試合前の練習は、サーブのみ（各サイド2球ずつ）とする。

3. 審判について

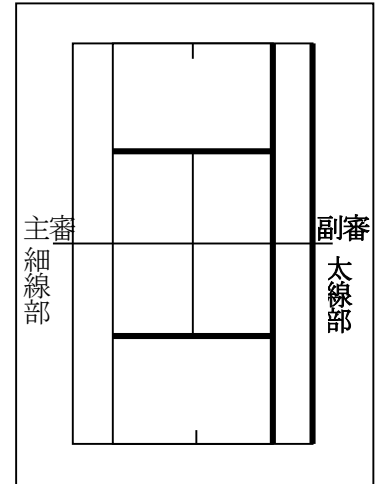
(1) 敗者審判

審判は、原則として前の試合の敗者（個人戦では負けた選手本人）が行う。
試合後、敗者は同じコートで待機すること。

(2) 主審と副審の分担

主審と副審の分担は、右の図の通りである。それぞれの区分を、責任を持ってコールすること。ただし、それぞれの区分が選手の陰になるなどして、ジャッジできなかったときは、両審判が協議してコールする。また、副審も大きな声で「アウト」「フォルト」をコールしなければならない。 **(要注意)**

※太線部が、副審がジャッジするライン



(3) 主審

主審のコールやカウントのアナウンスは大きな声で明瞭に行うこと。

(4) 審判の心構え

「公正」で「責任ある態度」を貫き、自信を持って務めること。また、いかなるコールも選手や監督からの申し立てによって翻してはならない。 **(要注意)**

4. 北海道高体連ローカル・ルール

(1) ボールマーク（コート上に落ちたボールの跡）の調査（確認）

いかなるサーフェスのコートにおいても、選手・監督は審判にボールマークの調査を要請することはできない。
また、審判は選手・監督の要請によってボールマークの調査を行ってはならない。

(2) レット

レットは、インプレー中に審判（主審・副審）が競技に支障をきたすような事実があると判断して「レット」をコールした時に成立する。「レット」をコールできるのは審判（主審・副審）のみとする。また、ファーストサーブがフォルトになりセカンドサーブを打つまでの間に、他のコートからのボールがプレーの妨げになって審判がレットをコールした場合、サーバーはセカンドサーブから始めなければならない。
（審判のいる試合では、選手が「レット」をコールすることはできない）

(3) 試合中のけが

試合中の事故・熱中症等によるメディカルタイムアウトは一部位につき1回に限り許される。これには「筋けいれん」も含まれ、専門部がそれを認め、処置の開始を宣言してから3分以内に終了しなければならない。

5. その他

(1) 選手の変更は、要項に記載されているとおり病気・怪我等の正当な理由のある場合に限り、学校長名の文書で申し出ることが出来る（突発の場合はその限りではない）。選手変更の申し出については、専門部で協議の上決定する。変更の届け出は、大会前日の団体戦監督連絡会議及び個人戦引率責任者連絡会までとする。

(2) ガットマークは禁止する。

(3) 雨天の場合も会場に集合して、大会本部の指示を待つこと。

(4) スコアボードは、選手（学校）番号の若い方を左側または上部に表示すること。

(5) 団体戦のオーダー用紙は、正確に丁寧に記入して本部に提出し、副票を試合開始前の挨拶の時に交換する。

(6) インプレー中の声や拍手による応援は禁止する。アウトオブプレーの際の応援も節度と良識を持って行わなければならない。相手の選手や周囲の選手への配慮として、歌やポイント間に連呼する応援を禁止する。

(7) 貴重品やラケット等の管理に十分注意すること。